

科目名 Course Name	ゼミナールⅡ（公務員） Seminar Ⅱ				ナンバリング No.	A2-019	
年次	1 年	期別	後期	単位数	1	授業形態	演習
担当者氏名	藤田 蘭丸						
連絡方法	C-Learning で対応。または、教室、講師控室で対応。						
必修／選択	選択						
関連 DP	DP1,DP2,DP5						
授業の概要と 到達目標	本科目は、前期のゼミナールⅠ（公務員）に引き続き、社会に出て直面する行政の実態に関する知識や、公務員を志望する学生が理解しておくべき行政の視点、考え方について学ぶとともに、現代行政が抱える課題の把握や分析を行うことで、実際の職務に活かせる力を養成する。 ①公務員として必要な知識を習得する。 ②論理的に思考することができるようになる。 ③現代社会が抱える諸問題を的確に把握し、多角的な視点から論じることができるようになる。						
授業の方法	ディベート、グループワークなどを含む演習形式で行う予定であるが、履修者数によっては講義形式とする。						
学習成果	L01	テーマについての報告・議論を通して、主体的に問題発見と対応策の提示ができる。					
	L02						
	L03	学んだ知識をもとに、複雑な社会的事象を論理的に読み解くことができる。					
	L04						
課題に対する フィードバック	講義の中で対応する						
教科書／ 参考図書	【教科書】初回授業時に指示する。 【参考図書】必要に応じて講義中に提示する。						
履修上の留意点 やルール等	ゼミナール形式を取るため、受講者には一定の頻度で報告をしてもらったり、発言を求めたりすることになる。したがって毎回の講義に際しては、十分な自己学習の上で真剣に取り組む姿勢が強く求められる。シラバスは講義とグループワークの併用例を記載しているが、履修者数や受講者の希望によって授業方針等を決めるため、授業計画は変更となる場合がある。授業方針等の決定のため、履修予定者は初回授業に必ず出席をすること。やむを得ず初回授業を欠席する場合は必ず事前に連絡をすること。なお、成績評価の対象となるためには3分の2以上の出席を必要とする。 事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回 45 分とする。						
担当教員の実務 経験							

成績評価の方法と基準						
評価の領域	評価基準	学習成果の割合				
		L01	L02	L03	L04	
授業参加態度	グループワークなどへの積極的な発言などから判断する。	10		10		
レポート／作品	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているか、到達目標②③にかかわる視点が身についているかを評価する。	25		25		
発表	主に到達目標②③にかかわる政策分析上の視点が身についているかを評価する。	15		15		
小テスト						
試験						
その他						
合 計		50		50		

回数		授業計画
1	授業内容	オリエンテーション、今後の授業予定の決定、受講者の確定、グループ分けなど
	事前・事後学習	希望する公務員の職種や試験科目などを確認しておくこと。
2	授業内容	行政とは何か
	事前・事後学習	大学にはどの程度公的な補助が行われているのか調べる。
3	授業内容	政府とはなにか
	事前・事後学習	学生生活における集合行為問題の例を考える。
4	授業内容	国と自治体の仕組み
	事前・事後学習	議院内閣制と大統領制の特徴を整理する。
5	授業内容	中央省庁と自治体の組織
	事前・事後学習	中央省庁や各自治体の組織構造について整理、確認する。
6	授業内容	公務員とは何か
	事前・事後学習	公務員という仕事のやりがいについて考える。
7	授業内容	行政改革
	事前・事後学習	行政組織改革の手法について、具体例を用いて説明できるようにする。
8	授業内容	公共政策と行政
	事前・事後学習	自身の関心のある公共政策について、どのような問題への対応であったのか調べる。
9	授業内容	立法過程と条例制定過程
	事前・事後学習	自身の居住している自治体で作成された自主条例について調べる。
10	授業内容	予算と行政
	事前・事後学習	地方交付税制度の意義、役割について調べる。
11	授業内容	政策研究と政策分析
	事前・事後学習	自分の調査する公共的問題について、調査・報告の準備を進める。
12	授業内容	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション
	事前・事後学習	政策課題について資料を収集する。
13	授業内容	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション
	事前・事後学習	プレゼンテーションに向けて、資料の整理、作成、発表練習をする。
14	授業内容	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション
	事前・事後学習	政策課題について資料を収集する。
15	授業内容	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション
	事前・事後学習	プレゼンテーションに向けて、資料の整理、作成、発表練習をする。

科目名 Course Name	ゼミナールⅡ（スポーツボランティア演習） SeminarⅠ（Sports Volunteer Exercise）				ナンバリング No.	A2-019	
年次	1 年	期別	後期	単位数	1	授業形態	演習
担当者氏名	板倉 茂樹						
連絡方法	本館 2 階研究室か、メールで対応。オフィスアワーは月曜日以外の授業担当時間以外で。						
必修／選択	選択						
関連 DP	DP1, DP2						
授業の概要と 到達目標	スポーツをする人、みる人、させる人などに関わるボランティア活動の大切さを知り、スポーツを取りまく環境を知るとともに何ができるか考えて、自らボランティア実践できる態度を育成し、将来の職業選択に活かしていけるようにする。 ①スポーツボランティア活動の意味を他者に説明することができるようにする。 ②スポーツボランティア活動の機能による分類の利点を他者に説明することができるようにする。 ③スポーツボランティア活動内容を振り返り意義や役割を他者に説明することができるようにする。 ⑤スポーツボランティアに関わる課題の解決案を考えることができるようにする。						
授業の方法	パワーポイント、ディスカッション、授業用配布資料による講義 協力スポーツ団体での演習						
学習成果	L01						
	L02	スポーツボランティア活動の意味を認識して実践できる。 スポーツイベントの企画・運営をしていくための手がかりを得ることができる。 スポーツボランティアに関わる課題の解決案を作ることができる。					
	L03						
	L04						
課題に対する フィードバック	各自の課題については C-Learning のやり取りでフィードバックしていく。						
教科書／ 参考図書	必要資料は配布するので、特定の使用テキストはない						
履修上の留意点 やルール等	ボランティア精神のもと積極的に参加し、マナーを守り、自分で考え行動すること。課題を必ず提出すること。 事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回 45 分である。						
担当教員の実務 経験	職種：中学校野球部監督、高等学校硬式野球部アドバイザー、指導主事、校長 職歴：通算36年						

成績評価の方法と基準							
評価の領域	評価基準	学習成果の割合					
		L01	L02	L03	L04		
授業参加態度	最高水準としては、講義者の話を集中して聞き、質問に主体的に答えられること。主体的な行動ができること。		40				
レポート／作品	20 点満点の3つの実践レポートを提出すること。満点＝各設問に適切に答えているか、自由記述は8割以上記入されているか。提出期限が守られているか。締め切りを過ぎたら減点する。		60				
発表							
小テスト							
試験							
その他							
合 計			100				

回数		授業計画
1	授業内容	ガイダンス・スポーツボランティアの意義
	事前・事後学習	授業の進め方、成績評価方法、講義受講にあたっての注意点を整理する
2	授業内容	スポーツボランティアの種類と実習の進め方
	事前・事後学習	参加方法や活動にあたっての留意点を整理する
3～6	授業内容	スポーツボランティア① 9:00～1600 県内外のプロスポーツ団体、各種スポーツ協会等のイベントや試合等に参加 競技施設の測量検査に参加
	事前・事後学習	課題レポートのまとめ
7～10	授業内容	スポーツボランティア② 9:00～1600 県内外のプロスポーツ団体、各種スポーツ協会等のイベントや試合等に参加 競技施設の測量検査に参加
	事前・事後学習	課題レポートのまとめ
11～14	授業内容	スポーツボランティア③ 9:00～1600 県内外のプロスポーツ団体、各種スポーツ協会等のイベントや試合等に参加 競技施設の測量検査に参加
	事前・事後学習	課題レポートのまとめ
15	授業内容	事後指導
	事前・事後学習	演習を通して今後の進路選択にどのように役立てていくかをまとめる